

SE600S  
サンバースト



SE600N  
ナチュラル



## SE600

¥60,000

ワンピースのメイプルネックでしっかりとした「手応え」が特長のSE600は完成度の高いギターです。  
シングルコイルピックアップでは他の選徒を許さないPU-100がマウントされています。出力を上げた時でも、音が散らず纏りのあるパワフルなサウンド、メローでドライなトーンが得られます。

### Body

センまたはオルダー単板ボディ  
Vコントロール×1、Tコントロール×2  
3回路切替スイッチ  
PU-100ピックアップ×3  
トレモロユニット付

### Neck

メイプルワンピースネック  
ディタッチャブルネック  
ドット・ポジション  
グレコMH-803糸巻  
サンバースト仕上げSE600S  
ホワイト仕上げSE600W  
(ローズ指板ネック)  
ブラック仕上げSE600B  
ナチュラル仕上げSE600N  
ハイオリン仕上げSE600V

## SE500

¥50,000

シングルコイル独特の Attacks の強いクリアーなサウンドを生かしたSEモデルのポピュラータイプです。基本性能はそのままでローコスト化しました。

### Body

センまたはアガチス単板ボディ  
Vコントロール×1、Tコントロール×2  
3回路切替スイッチ  
PU-100ピックアップ×3  
トレモロユニット付

### Neck

メイプルネック、メイプル指板  
ディタッチャブルネック  
ドット・ポジション  
グレコMH-803糸巻  
サンバースト仕上げSE500S  
ナチュラル仕上げSE500N  
ホワイト仕上げSE500W  
(ローズ指板ネック)  
ブラック仕上げSE500B  
ハイオリン仕上げSE500V (オールドヘッド)  
(ローズ指板)



精度の高いアーミングが楽しめ、SEモデルの伝統的技術を継承したギタリストのためのギターがSE600、SE500です。

SE600W  
ホワイト



SE600B  
ブラック



SE500S  
サンバースト



SE500N  
ナチュラル



SE500W  
ホワイト



SE500B  
ブラック



## TREMOLO UNIT

SE用トレモロユニットを有効的に使用するためのコツ

●アームを使うとチューニングが狂う場合  
アームを使うとチューニングがすぐ狂ってしまうというトラブルの原因については、糸巻とナット間における弦のたわみがその大部分を占めています。つまり、アーミングすることによって弦の張力が微妙に変化してブリッジ、ナット間とナット、糸巻間で張力のバランスが狂ってしまい、それで音程が変わってしまうのです。

このような現象を防ぐには、ナット、ストリングガイドの溝の中を0コマ何ミリか往復する弦の動きをスムーズにすれば良く、その方法としてシリコン系の潤滑剤をナット、ストリングガイドに塗ると良いでしょう。こうすることにより弦の動きはスムーズになり、またナットの腐りも防止することができます。そして、最も基本的な事ですが糸巻には弦を少なくとも6回は巻き、よく引っぱって遊びのないように巻いてください。巻き付ける回数が少なかつたり遊びがあるとチューニングが狂う原因になります。

### ●プレートの木ネジ及びフローティングの調整

アームを使うとアームブロックは、ブリッジプレートを止めている木ネジを支点として動く訳ですが、この木ネジがゆるんでいるとアーミングの時にガタガタ音がしたり、確実にアームが動かなくなったりします。また、逆にビクビク締めつけてしまうとトレモロが全然きかなくなってしまうので、トレモロアームを最大限に活用するためにはそれなりの調整が必要です。

プレートの木ネジの調整はブリッジプレートをフローティングにしない状態(弦をゆるめた状態)でボディにビクビクと付け、木ネジをプレートよりほんの1ミリくらい浮かした所でセットして下さい。これで弦をはるのですが、この時のスプリングは1弦が.008、.009ならば4本に、.010以上ならば5本というのが通常のセッティングです。

チューニングして弦を張った状態にしてもブリッジプレートがフローティングにならない場合はスプリングを支えているテンションネジでスプリングの強さを調節してフローティングになるようにします。そしてブリッジプレートの最後部の一番浮いている場所がボディから1.5~2.5ミリ離れているようになればフローティングの調整は完了です。これもアームががたつくようでしたら、プレートの木ネジを多少調整して最適な場所を見つけてください。